

Library NEWS

2021年6月8日(火)

富合中図書室 藤本 桃子

5月の貸し出し状況



6月に入り、中体連やコンクールに向けて精一杯、部活動に励んでいることだと思います。3年生は3年間の努力の成果を十分に発揮することができるよう、最後まで諦めず、全力で挑んでほしいと思います。1・2年生も3年生の全力に負けないように取り組んでいけるといいですね。

さて、5月の貸し出し冊数は618冊でした。雨が続き、外で思いっきり身体を動かすことができない今こそ、読書を始める絶好のチャンスだと思います。ぜひ、たくさんの本を手にとって、お気に入りの1冊を見つけてみましょう！

5月6日(木)~5月31日(月)					
	1組	2組	3組	4組	学年合計
1年	54	12	110	95	271
2年	46	55	54		155
3年	94	51	47		192

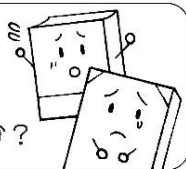
図書室 de シェア ~私のおすすめの1冊~

今年は読書の「和」を広げるために、新たな取り組みにチャレンジしてみたいと思います。その名も「図書室 de シェア」！ 図書室中央のテーブルにおすすめ本のコーナーを作りました。その本を借りる人は、自分のおすすめの本を1冊置いて、借りる本と入れ替えていくというシステムで、みんなでコーナーの運営を行う取り組みです。借りない人も、「これがおすすめです！」という本があればぜひ、机に置いてみてください。先生方の参加もお待ちしています！



返却期限、守っていますか？

借りたままで返していない本はありませんか？



みなさんは、本にはどうして返却期限があるのか、考えたことはありますか？

今年度も多くの方が図書室を利用してくれていますが、中には期限を守って利用できていない人がいます。放送での連絡や担任の

先生から渡してもらう督促状での連絡を重ねていますが、なかなか延滞本が減りません。

図書室では、返却日をみなさんに把握してもらうために、貸し出しの際には**返却期限が書かれたしおり**を配付しています。返却期限を確認するために有効活用してください。また、期限内に読み終わらなかった時は、次に予約が入っていなければ**貸し出し期間を延長することができます**ので、カウンターで申し出てください。

みなさんがルールとマナーを守り、多くの本を利用してくれることを願っています。



読んでみない？

今月のおすすめ本 ~先生方がおすすめする とっておきの1冊 Part 1~

3年学年主任 高山先生のおすすめ

『自然菜園』 竹内 孝功

畑を耕さず、農薬も使わない。草を利用して肥料も使わない。しかも1㎡の畑があれば始められる家庭菜園の本です。



3年1組担任 田代先生のおすすめ

『おばけのケーキ屋さん』 SAKAE

不思議で、あったかくて、ちょっぴり悲しいお話です。おばけのケーキ屋さんにやってきた少女はおばけとケーキをつくることになります。そして年月が経ち少女が結婚するとなったとき、おばけは最高においしいケーキをプレゼントしようがんばります。そのケーキを食べた少女は……。

3年2組担任 山本先生のおすすめ

『ポプラの秋』 湯本 香樹実

父を亡くし、母と2人で暮らす「私」は、死への恐怖心を抱いたままでした。引っ越した先のアパートの大家さんであるおばあさんに、「あの世にいるお父さんに手紙を届けてあげる」と言われ、「私」は日々の思いを手紙にし始めるのでした。どうしておばあさんは手紙を書かせたのでしょうか？あの世へ手紙を届ける方法とは？心温まるお話です。

3年3組担任 村島先生のおすすめ

『夢をかなえるゾウ』 水野 敬也

インドでは神様として祀られるゾウの神様ガネーシャが主人公に1つずつ課題をだし、主人公はそれを行動にすることで自己実現を果たしていきます。それぞれの課題は世界の偉人が日頃やってきたことの1つ1つですが、それをユーモラスに説明、物語化してあり、とてもおすすめです。くすっと笑いたい人、どうぞよんでみて下さい。

5組担任 大川内先生のおすすめ

『カラフル』 森 絵都

本書「カラフル」は、少年の魂がホームステイするところから始まり、普通の設定とは言い難いですが、家族の人間模様を描き、次ページを早くめくりたい衝動にかられてきます。現代社会で抱えている問題点や不安を何となく和らぐ作品です。また生命と心のコミュニケーションの大切さを通してカラフルな世界が広がる本です。ぜひ読んでみてください。

3年副担任 西岡先生のおすすめ

『山月記』 中島 敦

「山月記」は漢文調で書かれた短編小説です。誰もが抱く「自信・不安・身勝手さ」がもととなって、主人公が虎になり果ててしまう話です。生き方について深く考えさせられる作品です。

3年副担任 内布先生のおすすめ

『また、同じ夢を見ていた』 住野 よる

「君の臍臓を食べたい」で鮮烈なデビューを果たした住野よるさんの作品です。主人公は「人生とは……」が口ぐせのちょっとおませな女の子。彼女は、ある日、草むらで一匹の猫に出会います。そしてその出会いが様々な過去を持つ女性たちへの不思議な出会いに繋がっていきます。そしてこの物語には大きな謎が!!人との出会いを通じて自分の幸せを探す物語です。

図書司書 藤本のおすすめ

『心晴日和』 喜多川 泰

クラスの女子からいじめられ、孤独を感じていた美輝は、一人の老人と出会います。「でも……」が口癖だった美輝は、様々な視点で物事を見ることの大切さを知り、自分の力で今の状況を変えようと努力を続け、新しい見方・考え方を身につけます。人との出会いを大切にしたい、そう改めて思える作品です。

